大阪プロバスクラブ

会報　第395号
2024年8月21日発行
Monthly Bulletin of
The Probus Club of Osaka

例会場：ホテルモントレ大阪　06-6458-7111
例会日：2022年7月より毎月第2水曜日12時～14時
○創立2001（平成13）年7月9日創立記念式7月16日
○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ
○友好クラブ：箕面ロータリークラブ
○会長：山下恵司　○幹事：川端崇且 Tel：090-2702-7212
○事務局：（幹事宅）〒562-0044 箕面市半町2-5-23
○会報担当：西宮富夫　pxi06603@nifty.com
○大阪プロバスクラブ会報：http://osakapurob.exblog.jp/
○全日本プロバス協議会：https://www.all-japan-probus.com/
（R4年11月の第10回総会で決定された新体制）
会長 田中信昭、幹事長 一瀬 明、会計 飯田冨美子
○日本のプロバスクラブ・関西Blog版：
http://probuscent.exblog.jp/

R6年7月初旬～R6年8月上旬までの更新分（順不同）

クラブ	会報	記事一部
旭川	会報 228号、229号	228号：野村パターソン和彦市議のコンサート、他、229号：2024～25年度スローガン、ハッピーボックス、他
東京八王子	プロバスだより第344号	次年度の人事構成・役員所掌、各委員会からの報告、ハッピーコイン、（俳句同好会便り：夏の御岳吟行）池田ときえ、他
東京多摩	会報 112号	創立20周年記念式典・祝賀会、カピティコーストのプロバスクラブ伊藤健一会員、寄稿「横濱プロバス倶楽部とバーベキュー交流」小島明会員、他
神戸北	6年8月例会のご案内	7月総会での決定事項、9月～R7年6月までの例会について、「ひとこと」藤原良一会員、他
大阪	会報第394号	卓話「①”梅雨をかろやかに過ごす”記事紹介、②童話”雨が好き”紹介」吉川栄子会員、近況報告「2泊3日で八ヶ岳へ行ってきた」笠松幸一会員、他
北九州	つながり216号、217号	216号：5月例会卓話「幸せの人間関係～あるがままに生きる～」西南女子学院大学教授中島俊介氏、217号：6月例会卓話ノイシアーモコンサート、喜寿祝い「喜界島の旅No8安高洋一」、他

今回　第396回 ビアパーティ 2024年8月21日（水）
会場：ホテルモントレ大阪　16：00～19:00

●大阪プロバスの歌（作詞：渡辺　孟　補詩：田村徳郎）

① プロバスクラブへ集まろう　気の合う仲間とお昼時
元気に歌おう会の歌　第二の人生また楽し
② プロバスクラブに集まって　優しく気軽に話そうよ
見せたい自慢の得意技　遊びのプランもまた楽し
③ プロバスクラブに集まれば　高まる奉仕の心意気
世界に広がる和の願い　明日も愉快に生き抜こう

●『月』（文部省唱歌）

でたでた月が　まあるいまあるいまんまるい
盆（ぼん）のような月が
隠（かく）れた雲に　くろいくろい真っ黒い
墨（すみ）のような雲に
またでた月が　まあるいまあるいまんまるい
盆のような月が

前回　第395回　通常例会　2024年7月10日（水）
会場：ホテルモントレ大阪　12：00～14:00

◎通常例会

○司会進行：伊丹谷五郎会員
○ソング：吉川栄子会員　●『海』
●食事タイム　乾杯：西田隆昭会員
（ワイン1：サン・ロマン ブランで乾杯）

ワイン1. サン・ロマン ブラン
（文はWine Shop Salutサイト記事サン・ロマン ブランより引用）（画像：葡萄屋サイト記事サンロマンより引用）

ワインラベル

コンブ・バザン区画画像

生産地：ブルゴーニュ、サンロマン村標高350m南西向き急斜面コンブ・バザン区画の粘土石灰で育つ樹齢30年のシャルドネを古樽で4ヶ月発酵、8ヶ月熟成しました。
生産者：**サルナン-ベリュー**は、2007年に設立したネゴシアン兼ドメーヌ。金融会社に勤めていたジャン・パスカル・サルナンとドメーヌのワイン造りのかたわら醸造学校の先生もしていたジャン＝マリー・ベリューの二人により設立されました。（インポーター資料より）

ワイン2. レ・トゥーレル・ド・ロングヴィル
（文・シャトー画像：TERADAWINE寺田倉庫より引用）

ワインラベル

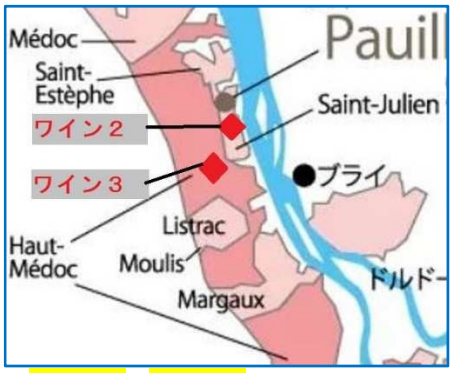
シャトーピションバロン

生産地：畑はジロンド川の真南に面し、サン・ジュリアンとポイヤックの境目付近にあります。ラトゥールやレオヴィル・ラスカーズ、レオヴィル・ポワフェレが隣接している素晴らしい場所に位置しています。
生産者：Chateau Pichon-Baron
「メドックで最も荘厳」と称されるポイヤックの格付け第2級シャトー、ピション・ロングヴィル・バロンは1933年に所有者が変わるなど、その後も畑は最高の立地

にありながらも真価を発揮できずにいました。しかし、（中略）活発な設備投資と畑の改良が行われ、1987 年を境にワインの評価は一変して本来の高い評価を取り戻すこととなります。

ワイン 3. シャトー・ドゥ・カマンサック
（文・生産地写真：エノテカ online シャトーカマンサックより引用）

ワインラベル



（ワイン２とワイン３生産地◆は近い）

生産者：メドック格付第 5 級ながら、（中略）注目を浴びることがありませんでしたが、1964 年にフェルネール兄弟が買収して以降、（中略）高品質ワインに変貌。また、カマンサックの復活には欠かせなかった人物が、ボルドー大学で醸造学の講師をしていた天才醸造学者エミール・ペイノー氏。

生産地：シャトー・ド・カマンサックはサン・ジュリアンのすぐ西側、オー・メドック地区のサン・ローランという村に位置しています。**（会報担当より：ワイン 2 の生産地はサン・ジュリアンとポイヤックの境目付近なので、ワイン 3 とワイン 2 と生産地◆は近いといえます。）**

〇山下恵司会長挨拶：1 年間無事に過ごすことができよかった。8 月は全日本の総会があり、6 名で参加します。1 泊して観光もする予定です。
〇幹事報告：例会後年次総会、その後理事会を開催。11 月頃指名委員会を開催予定。
〇親睦委員長：理事会にて 8 月 21 日 4 時からのビアパーティについて必要事項を決めたいと思います。
〇出席報告：委員長より会員 12 名との報告。
〇OH-BOX:担当委員長より 8 名 32.000 円との報告あり。
★山下恵司会員：新年度第 1 回。
★川端崇且会員：2024～2025 年、今日から始まります。残り 1 年よろしく。
★西田隆昭会員：会長、幹事様よろしくお願いします。
★伊丹谷五郎会員：欠席が多く申し訳ないです。出来るだけ出席するようにしますのでよろしく！
★西宮富夫会員：暑くなって来ました。なんとか無事に過ごしています。
★田中浩三会員：暑中お見舞い申し上げます。お身体を大切に。
★野村尚子会員：新年度、この 1 年楽しく過ごしましょう。

◎年次総会（総会は有効に成立）

（会報担当より：年次総会に先立ち、会長挨拶や会長の卓話時間に新年度方針が少しづつ発表されたので、ここで新年度方針としてまとめました。）

●2024-2025 年度方針：山下恵司会長

1. 会員数を増やすこと。 特に女性会員を増やす。
現在女性会員は 3 名ですが、他クラブでは女性会員が多い。当クラブも努力したい。
2. 退会者が出ないようにする。
3. 社会貢献を何かやりたい。
会員の同意を得て行う社会奉仕を考えていきたい。
4. 卓話の充実 ゲスト卓話を含めて
例会は卓話も重要な項目なので、ゲスト卓話も含め、充実を図るよう考えていきたい。
5. 近隣のクラブにできるだけ案内状をだしていただく
8 月ビアパーティ例会、12 月 Xmas 例会などには交流のある他クラブにも積極的に案内状を出していただきたい。
6. 会員が孤立しないようにお声がけする
7. 卓話の時間が余ったときに会員の近況を話していただく。本来卓話の時間は約 30 分ですが、短く終わったときなどは会員の近況を話していただきたい。本人には普通でも、他の会員には興味があると思いますので。

●2023～2024 年大阪プロバスクラブ活動報告

7 月 12 日 水）	山下会長の活動方針 理事会
8 月 9 日（水）	ビアパーティ　参加 33 名
9 月 13 日 水）	田中浩三会員の卓話　理事会
10 月 11 日 水）	移動例会 職場訪問（伊丹谷会員） 参加 12 名
11 月 8 日（水）	笠松幸一会員の卓話　理事会
12 月 20 日（水）	クリスマス例会 参加 23 名
1 月 17 日（水）	新年例会・年次総会 理事会
2 月 14 日（水）	ゲストスピーカー富谷至氏 （京都大学名誉教授）
3 月 13 日（水）	永田慎一会員の卓話 理事会
4 月 10 日（水）	移動例会箕面音羽山荘　参加 13 名
5 月 8 日（水）	ゲストスピーカー野村正勝氏 （大阪大学名誉教授）
6 月 12 日（水）	会計担当 吉川 栄子会員の卓話

●2024～2025 年度大阪プロバスクラブ事業計画
開催場所ホテルモントレ大阪 8 階エスカーレカフェルーム

7 月 10 日（水）	通常例会 12 時～14 時+理事会
8 月 21 日（水）	ビアパーティ 16 時～19 時
9 月 11 日（水）	通常例会 12 時～14 時+理事会
10 月 9 日（水）	移動例会
11 月 13 日（水）	通常例会 12 時～14 時+理事会
12 月 18 日（水）	クリスマス例会
1 月 15 日（水）	通常例会 12 時～14 時+理事会
2 月 12 日（水）	通常例会 12 時～14 時
3 月 12 日（水）	通常例会 12 時～14 時+理事会
4 月 9 日（水）	移動例会
5 月 14 日（水）	通常例会 12 時～14 時+理事会
6 月 11 日（水）	通常例会 12 時～14 時

●2024～2025 年度理事役員及び委員長

役職	役員・理事	副・委員及び役割
会長	山下恵司	
副会長	西田隆昭	相談役・ホテルとの交渉
幹事	川端崇且	西宮富夫

会計	吉川栄子	野村尚子
会計監査	会長・幹事	会計・OH-BOX の会計監査
司会	伊丹谷五郎	永田愼一、野村尚子、他
広報委員会	西宮富夫	笠松幸一：会報作成及び全日本、他クラブへの窓口等
プログラム委員会	永田愼一	川端崇且：卓話等の予定作成、親睦活動への協力
親睦活動委員会	浅山紀久子	吉田州伸、野村尚子、田中浩三：親睦活動、移動例会等の企画立案
出席委員会	野村尚子	吉川栄子、蒲生惇子：出席管理・会場設営と食事数確認等
会員増強委員会	伊丹谷五郎	浅山紀久子、田中浩三、浅井良佑：会員増強と入退会の選考・管理
OH-BOX	宮田鐵夫	野村尚子：OH-BOX の管理
ソングリーダー	吉川栄子	
全日本	山下恵司	全日本プロバス協議会理事副会長近畿地区担当

◎近況報告「松阪・本居宣長記念館へ行ってきました」西宮富夫会員

昨年末頃にバッテリーを新しくしたが 5 月頃バッテリーが挙がってしまった。最近は車に乗っていないため。そこでたまには長距離ドライブをすることとした。

今回は松阪**の本居宣長記念館**へ行ってきた。名神・新名神・伊勢道と高速ばかり往復 320 km走った。

●本居宣長代表作は「古事記傳」

（以下 Wikipedia より引用）

本居宣長は 1730 年に生まれ 1801 年死去。荷田春満、賀茂真淵、平田篤胤とともに「国学の四大人」の一人とされる。（中略）賀茂真淵の励ましを受けて『古事記』の研究に取り組み、約 35 年を費やして当時の『古事記』研究の集大成である注釈書『古事記傳』を著した。『古事記傳』は当時の人々に衝撃的に受け入れられ、一般には正史である『日本書紀』を講読する際の副読本としての位置づけであった『古事記』が、独自の価値を持った史書としての評価を獲得していく契機となった。

（没後）

明治 38 年（1905 年）に従三位が追贈される。明治 39 年（1906 年）に設立された「鈴屋遺蹟保存会」の手によって、旧宅は明治 42 年（1909 年）に松坂城二の丸跡地に移築され、宣長当時の姿に復元された。（中略）

昭和 45 年（1970 年）に宣長の業績の顕彰を目的として、宣長の旧蔵書や自筆本などを保存・公開する施設「本居宣長記念館」が開館した。

●本居宣長記念館と鈴屋

昭和 45 年開館の**本居宣長記念館は松阪城址**に建つ。記念館を訪ねると**宣長の自宅「鈴屋」**もすぐそばに建っていることに驚く。上記の通り本居宣長に明治 38 年従三位が追贈され、宣長が医者をしていた当時の自宅（鈴屋）も城址に移築されたので、現在は昭和 45 年築の記念館ともにすぐそばの鈴屋を見学できる。この記念館には宣長の代表作「古事記傳」全 44 巻の草稿をはじめ、すべての遺構が所蔵されている。

本居宣長記念館

鈴屋内部

●「古事記神世七代の段は古代大阪がモデル」

（以下、**本居宣長の代表作「古事記傳」を基礎にした筆者のブログ記事**を紹介します。本居宣長の注釈付「古事記傳」三之巻神世七代の段）（現代語訳『雲の筏』）を読んで初めて”古事記神世七代の段”は古代大阪の成り立ちがモデルになっていると確信した。）

★ **【神世七代の段】3 代目に現れる神：御名は宇比地邇（ウヒジニ）の神、妹須比智邇（いもスヒチニ）の神。**

この個所は、本居宣長古事記傳現代語訳［雲の筏］によると、「宇」は土と水が混じった泥であり、「須」は土と水が分かれた砂を言うとのこと。この 2 柱は泥の神、砂の神なのである。沼にただよっているものから泥と砂が生まれた。なぜ、泥と砂の神が現れたのか。

約7000～6000年前

海水面が現在の水位より1～2m高く上昇し、河内平野を覆った水面が、東は生駒山麓、南は八尾、北は高槻付近まで広がっていました。

偏西風の影響のもとに沿岸州が発達し、現在の松屋町筋付近には砂浜が続いていました。

画像引用元：https://www.suito-osaka.jp/history/

（筆者は、神世 3 代目の 2 柱の出現は「上町台地が隆起し、海と湖に分かれた古代大阪特有の出来事」がモデルになっていると考える。

まず、3 代目の 2 柱は沼に尖ったものを生み出した。こ

の尖ったものが沼を２つに分けたため、泥の湖（河内湖）と砂の海（大阪湾）が生まれ、この２柱が司るのであるが、土地の隆起で海から湖が分かれたことを古代人は泥の神、砂の神が現れたから考えたのである。）

★【古事記神世七代の段】４代目に現れる神：御名は角杙（ツヌグイ）の神、妹活杙（いもイクグイ）の神。

本居宣長古事記傳現代語訳によると、「つぬぐい」は「わずかに現れ、生れ出ようとするきざし」の意味があるとのこと。なので、角のある大きな石などが、少し集まった泥や砂が流れ去るのを防ぐような役割の神と考えます。また、「いくぐい」は生きて活動し始める意味とのこと。したがって、角杙（ツヌグイ）神は新しく生れ出ようとするきざしに現れる神であり、妹（イモ）活杙（イクグイ）神はその兆しが生き続け、次第に活発に活動し始める時に現れる神ということと理解できる。この２柱は大阪特有というより必要不可欠な神と考える。

（具体的には次のように想像する。
右：生れ出て次第に活発に活動し始める例（アシカビ）。
左：砂が集まって浜が生れ出ようとしている例（砂浜）
この時、砂浜やアシカビに**角杙（ツヌグイ）神・妹活杙（イクグイ）神**が宿っていると理解する。）

テトラポットのある浜辺

葦芽（アシカビ）

（葦芽画像引用元：blog.livedoor.jp/syoukaibu/）

★【古事記神世七代の段】５代目に現れた神：御名は意富斗野地（オオトノジ）の神、妹大斗野辨（いもオオトノベ）の神。

本居宣長古事記傳現代語訳によると、「意冨（おお）」は美称、「斗」は「處（と）」で「ところ」とのこと。「辨（べ）」は男神の「地」に対し、女神の尊称とのこと。よって、この２神が現れたことで、「地になるべきもの」が集まって国土の始りである「處（ところ）」が現れたのである。この「處（ところ）」とは、砂洲や葦原のようなもので、広がりのある場所ということではないか。

葦原：blog.goo.ne.jp/super-buchou_2007/より引用

実際は、河内湖には淀川・大和川が泥や砂を運んでくるため、それが溜まって、葦原となり、海の波は砂浜を作り、砂州を作り、葦原が生まれたのであるが、この様子が５代目の神の世のモデルとなっていると考える。

しかし、古代の人達は新しい土地が出来ていく様を見て５代目の２柱が沼では泥を溜め、葦原（アシハラ）を生み、海では砂を溜め、砂洲を造ったと考えたのである。葦原中国（アシハラのナカツクニ）の始まりである。また、「ところ」に対する美称「意冨（おお）」は「よい土地」ということで大阪平野がどんどん拡大していく様を表現していると考える。

★【古事記神世七代の段】６代目に現れた神：御名は於母陀琉（オモダル）の神、妹阿夜可志古泥（いもアヤカシコネ）の神。

本居宣長古事記傳現代語訳によると、於母（おも）陀琉（たる）は顔が不足なくそなわり整っていること、「阿夜（あや）」は「ああ」と驚嘆すること、「可志古（かしこ）」は「おそれる」という意味とのこと。つまり、妹阿夜可志古泥（いもアヤカシコネ）の神は、於母陀琉（オモダル）の神の美しく立派な顔を見て、畏れ敬ったのである。

（この部分は、６代目の神が現れ、広い立派な土地が生れたのであるが、実際には淀川・大和川が泥や砂を運び込み、立派な大阪平野が完成したことがモデルになっていると想像する。現代では大阪平野の変遷は下図のように表される。しかし、古代大阪人は自分たちの周りに葦原が生まれ、次第に広がって立派な土地になっていく様を見て、「神の御業（みわざ）」と畏れ敬い、神の物語を必要としたと想像する。）

１番目の神：地を造る ２番目の神：沼を造る ３番目の神：上町台地を隆起し、泥の湖と砂の海に分ける。	４番目の神：湖に泥、海に砂を溜めはじめる。 ５番目の神：岸に葦原を造る。 ６番目の神：立派な平野を造る。

約7000～6000年前
海水面が現在の水位より1～2m高く上昇し、河内平野を覆った水面が、東は生駒山麓、南は八尾、北は高槻付近まで広がっていました。
偏西風の影響のもとに沿岸州が発達し、現在の松屋町筋付近には砂浜が続いていました。

約1800～1600年前
天満長柄の砂州が北へ延びきって、河内平野（河内潟）への海水の流入をさえぎり、河内潟は淡水湖となりました。

画像引用元：https://www.suito-osaka.jp/history/

次回　第397回 通常例会　2024年9月11日（水）
会場：ホテルモントレ大阪　12：00～14:00

以上